

第49期 事業報告書

平成16年3月21日 ~ 平成17年3月20日

進化する希元素が拓く豊かな未来社会

三次元構造リン酸ジルコニウム ($\text{HZr}_2(\text{PO}_4)_3$) の電子顕微鏡写真

 第一希元素化学工業株式会社

Top Message

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。また、平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申しあげます。

当社第49期（平成16年3月21日から平成17年3月20日まで）事業報告書として、営業の概況等をご報告申しあげます。



代表取締役社長 **杉井 洋**

営業の概況

当期における世界経済は、エネルギーや素材の価格が中東情勢の混乱や世界的な需給逼迫を背景に上昇するなどの不安材料はありましたが、BRICs（ブラジル・ロシア・インド・中国）諸国が引き続き高い経済成長を示し、先進諸国の経済も緩やかな成長基調を維持したことから、総じて堅調に推移しました。我が国経済においても、アジア向け輸出の好調やそれによる設備投資の回復、個人消費の緩やかな増加などにより回復傾向となりました。しかしながら、年度後半にはデジタル家電を中心とした若干の景気減速感が出るなど、本格的な回復基調には至りませんでした。

当社顧客の業界におきましても、好調な鉄鋼業界の需要に支えられた耐火物は堅調であったものの、高付加価値製品ユーザーである自動車・家電業界の価格低減要請が強く、ジルコニウム鉱石・中間原料及び化学薬品などの原料コスト上昇分を全て販売価格に転嫁できず、厳しい状況が続きました。

このような環境のもと、当社は主要な用途である自動車排ガス浄化触媒において、今後の世界的な環境規制強化スケジュールを前提とした新しい触媒材料の研究開発と顧客への提案活動を積極的に進めました。しかしながら、自動車業界は全体として堅調でも、企業グループ別で業績に大きく差異があり、売上高は前期を下回りました。その他の用途につきましては、販売数量の確保、製品価格の維持・是正を図り、業績の回復・向上に努めました。

以上の結果、当期の業績は、売上高10,267百万円（前期比0.7%増）、経常利益911百万円（前期比15.7%増）、当期純利益455百万円（前期比31.8%減）となりました。

なお、用途別の営業の状況は、次のとおりであります。

(触媒)

自動車排ガス浄化触媒は、世界的に環境規制強化の動きがあるものの、当期は規制強化の端境期にあり、新規開発製品が本格採用に至らなかったことと、主に米国自動車業界の販売不振の影響により伸び悩みました。

これらの結果、触媒用途の売上高は5,299百万円(前期比4.3%減)となりました。

(電子材料・酸素センサー)

酸素センサーは期中を通じて堅調に推移いたしました。電子材料は期後半に電子部品業界の在庫調整の動きがありました。また、業界全体で部品の小型化が進んでおり、当社製品の使用数量が減少したことにより、売上高は前期を下回りました。

これらの結果、電子材料・酸素センサー用途の売上高は1,659百万円(前期比7.7%減)となりました。

(耐火物・ブレーキ材)

耐火物は、中国の旺盛な需要を背景に製鉄向け連続鑄造耐火物用の販売が、内外で好調に推移いたしました。ブレーキ材も国内自動車生産台数が堅調であったことから、売上高は前期を上回りました。

これらの結果、耐火物・ブレーキ材の売上高は1,585百万円(前期比18.8%増)となりました。

(ファインセラミックス)

国内主要製品のフェルルール(光ファイバー接続用コネクタ部材)向けが通信業界の向きの設備投資の恩恵を受け若干回復に転じるとともに、包丁用など汎用品向けが好調に推移いたしました。燃料電池関連も内外の企業の積極的な研究開発を受け、材料供給が増加しました。

これらの結果、ファインセラミックス用途の売上高は756百万円(前期比26.2%増)となりました。

(その他)

セシウムフラックスは、海外展開を進め、売上高は前期より大幅に増加いたしました。吸着剤や塗料、顔料、製紙、合成樹脂向けなどの用途は、価格競争が激しく、前期を下回りました。

これらの結果、その他の売上高は967百万円(前期比4.0%増)となりました。

対処すべき課題

当社をとりまく環境につきましては、経済のグローバル化・技術開発スピードの高速化の中で、競合会社及び新規参入会社との価格競争や技術開発競争の激化が予想されます。一方、世界的な環境規制強化の動きは今後も続き、排ガス浄化触媒等当社主力製品にとっては、更なる需要拡大が期待されます。

このような状況のもと、当社は現在、平成17年度のスタートに際して制定いたしました中期計画(平成17年度から平成19年度)に基づいて事業運営を進めております。中期計画では、「あらゆるジルコニウム化合物のトップメーカーであることを認識し、我が社を更に発展させるにふさわしい、生き方・やり方を行う」という基本方針を掲げ、次の課題に取り組んでまいります。

コアコンピタンスの強化

技術部と営業部の密接な連携により、顧客のニーズに迅速に対応してまいります。具体的には、各自動車メーカー・触媒メーカーとの緊密な情報交換とサポート体制により、排ガス浄化触媒の新製品の採用を強力に推進いたします。ファインセラミックスにつきましては、更に高品質・高性能品の開発に注力し、特に燃料電池材料の開発をスピードアップして進めてまいります。

着実な生産能力の増強

改善活動(提案制度や小集団活動)・在庫削減活動・ISO9001に基づく業務の標準化などの地道でたゆまぬ活動により、コスト削減努力を継続いたします。また、将来の需要増を視野に入れ、工場新設を含め、順次能力増強投資を進めてまいります。

研究開発能力の強化

顧客の要求を満足する製品には、今後更に厳しく高度な技術水準が必要になると予想されます。テーマ毎に開発チームを編成し、目標と開発スケジュールを明確にして研究開発を進めます。開発成果は、当社のビジネス上の優位性確保のため積極的に特許出願し、技術資産として確保してまいります。

このような施策を着実に実行することにより、持続的な成長、発展を図ってまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Frontier

**創業以来半世紀にわたりジルコニウム化合物の特徴を活かした製品を実用化する可能性を探求し、
ジルコニウム化合物の製造・開発を続けています。**

ジルコニウム化合物の精製には乾式と湿式の2方式がありますが、当社は目的に応じて有利な製造方式を選択できる世界唯一の企業です。また鉱石から最終製品までの一貫生産体制システムを有するメーカーは、当社以外には1社しかありません。蓄積したノウハウと技術を基に、今後もジルコニウム化合物の可能性を追求し、総合無機化合物のグローバルメーカーへの発展を目指します。

優れた特性を秘めながらも その価値が見過ごされていた「ジルコニウム」

ジルコニウムの原子番号は40番。その優れた物質特性ゆえに各産業界で注目され、次々と材料革命をもたらしている新世代材料です。今やジルコニウムは社会のいたるところに、また私たちの身近なところで、姿を変えて使われ、技術革新を支える重要な資源となっています。しかし、当社が創業した1956年当時、ジルコニウムは原子力発電のウラン燃料の被覆管として研究されているぐらいでした。工業用原料として高純度酸化ジルコニウムは非常に高価であり、物質特性も十分に解明されておらず、需要もほとんどなかったのです。世の中にジルコニウムなるものが存在し、それが産業界で重宝されるようになるとは、当時誰が想像したでしょう。ただ、「誰も手をつけていない物質」の研究開発、未知なるものに挑もうとする技術者にとっては、情熱を注ぐにふさわしい研究開発の宝箱がここにあったのです。



その他

低融点でアルミニウムのろう付けが可能なセシウムフラックスや、ジルコニウム以外の無機化合物等も取扱っています。



触媒

自動車排ガス中の有害物質を取り除くための助触媒として大気汚染の軽減、浄化に貢献。また、プラントなどで発生する有害ガスを浄化する環境触媒の分野でも当社製品が活躍しています。

環境分野から生活用品まで、 「ジルコニウム」は社会を支えています

ジルコニウム化合物は、高融点、耐熱、低熱伝導、誘電、圧電、イオン伝導、耐摩耗、耐蝕、耐薬品、高靱性、高強度、触媒特性等々、非常に優れた特性を備えています。このような多くの優れた特徴を活かしてつくられるさまざまな化合物は、多種多様な用途に幅広く用いられ、私たちの生活の中で欠かせないものとなってきています。また、エレクトロニクスやデジタル機器、更に環境浄化や新エネルギーの分野などで、新素材開発の大きな可能性を秘めています。



電子材料・酸素センサー

電子部品では携帯電話やパソコンなどの高度な技術を支えています。ジルコニア酸素センサーは空燃比制御用の高性能センサーとして自動車分野での市場が大きく拡大しています。



ファインセラミックス

一般セラミックスに比べ強度・靱性がアップした材料です。ジルコニアセラミックス本来の耐摩耗性、摩擦特性、非磁性、低熱伝導性、耐薬品性など優れた特性が発揮される分野です。



耐火物・ブレーキ材

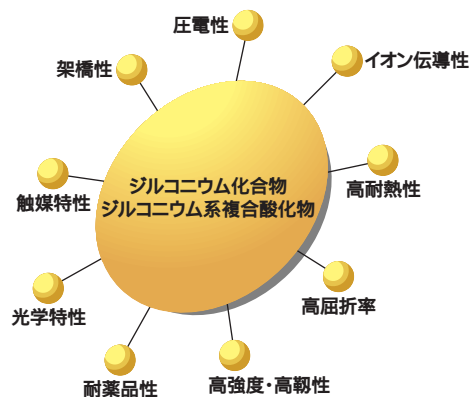
ジルコニア系耐火物は優れた耐スパーリング性、耐蝕性で高く評価されています。自動車のブレーキでは、ほぼすべてのブレーキにジルコニア系材料が使われています。



Technology

未来を導く「価値ある機能材料」、 今やジルコニウム化合物類の存在を抜きに時代の技術は語れません

創業以来の当社の歩みはジルコニウム化合物のもつ特性の解明とその応用開発の歴史といっても過言ではありません。防水剤（撥水性） 光学レンズ材料（高屈折率） セラミックコンデンサー（誘電性） 着火素子・プザー等の振動体材料（圧電性） 耐火物（耐熱・耐蝕性） 酸素センサー（イオン伝導性）というように、開発ごとに次々とジルコニウム化合物のもつ優れた物理化学特性が解明され、製品として具体化されてきました。その結果、現在ではジルコニウム化合物は私たちの暮らしをとりまく色々な製品に使われています。ジルコニウム化合物に対する期待と関心は高まる一方であり、市場も堅調に拡大しています。



蓄積したノウハウと先進の技術力をベースに、 「無機化学品の総合メーカー」へ

当社は、多様なジルコニウム化合物を、原鉱石から一貫体制で製造するという、世界でも稀な専門メーカーとして内外から高い評価を得るにいたっています。ジルコニウム化合物のトップメーカーとしての実績と蓄積した技術力をベースに、今後は特異な性質を付与した他の無機材料の製品化及び複合化にも取り組み、より成長力と競争力を備えた「無機化学品の総合メーカー」へ飛躍していきます。



Knowhow

研究開発

経営資源の多くを研究開発に注ぐ「技術立社」です

当社は、長年にわたってジルコニウム化合物について、構造の解析、生産工程改革、他物質との複合化による新しい特性などを研究・開発してきました。全従業員の約2割を研究開発部門に配置し、経営資源の多くを研究・開発に注ぐ「技術立社」としての経営方針を堅持しています。また、お客さまとのパートナーシップを大切にしたい研究開発スタイルも当社の基本姿勢です。専業メーカーとしての研究や技術開発の成果、技術のいっぱい詰まった引き出しをたくさん有していることは当社の強みでもあり、またお客さまの多様な要請に新技術で応えていくことのできる背景ともなっています。



生産体制

原料調達から精製・生産・製品化、そして販売まで

ジルコニウムの生産工程は、分解・溶解・析出・精製・焼成という長い工程です。当社ではこれらの工程をすべて自社で行える技術を有しています。世界にメーカーはいくつかありますが、ジルコニウムの原鉱石から最終製品までの一貫生産管理システムを有するメーカーはごく少数です。また、ジルコニウムの生産にあたっては大きく「湿式法」「乾式法」という二つの製法がありますが、当社は世界で唯一、両方の生産システムを有しています。これにより、お客さまの多様なニーズに幅広く対応できます。また、このような総合力と

柔軟性を兼ね備えた生産システムはジルコニウム以外の元素に対しても工程のいくつかの要素技術を組み合わせることで、容易に開発・製品化を進めていくことができます。



Solution

環境技術開発

排ガスのクリーン化を推進、自動車排ガス浄化触媒

自動車エンジンの排気ガスの中に含まれる有害物質の排出規制が年々強化されています。この厳しい規制に適合し、有害物質を大幅に浄化する高性能触媒として、当社のジルコニウム・セリウム系複合酸化物が使われています。また、実用化が進むコージエネ装置でのNOx（窒素酸化物）対策として、ジルコニウム化合物を用いた浄化触媒の開発が注目されています。



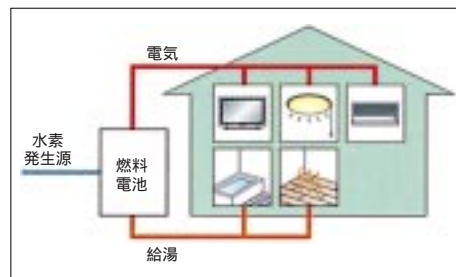
エンジンを正しく動かすことで、燃費向上と有害物質を減少させる酸素センサー

ガソリンを燃料とする自動車エンジンでは、燃費改善や排ガス触媒の働きを有効に保つために、空燃比の高精度な制御が必要とされます。固体電解質である部分安定化ジルコニアを利用した酸素センサーは、振動や高温環境下での信頼性と耐久性が高く、微量の酸素濃度をすばやく測定することが可能です。そのため、自動車用酸素センサーとして広く普及し、環境規制の更なる強化の中、搭載車種の増加と1台当たりの搭載個数の増加が予想されています。酸素センサーの原料として、当社は世界にジルコニウム化合物を供給しております。



燃料電池開発

当社では天然ガスから水素を取り出す触媒担体を開発し、家庭用燃料電池向けに一部採用が決まりつつあります。今後、ガソリンスタンドに設置する水素ステーションへの応用などへ可能性は広がります。また、高性能電解質材料「スカンジウム安定化ジルコニア」をガス会社と共同開発し、従来材料に比べ高い発電効率を実現しました。これにより同じ出力を軽量・コンパクトにつくれるため、燃料電池の小型化への貢献が期待されています。



Topics

東京証券取引所市場第二部に上場いたしました

当社は、平成16年12月3日、東京証券取引所市場第二部への株式上場を果たすことができました。これもひとえに株主の皆様やお取引先の皆様方の温かいご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

今後は、上場会社となった責任を重く受けとめ、株主の皆様のご期待にお応えできるよう、更なる事業展開に邁進する所存でございます。今後とも力強いご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



新工場の建設を決定いたしました

平成17年5月6日開催の取締役会において、生産能力の向上とリスク分散を含めて新工場（候補地：福井県福井市「福井テクノポート」工業団地、投資総額：3年間で最大約40億円、平成18年3月期中に着工、平成19年秋頃竣工を予定）の建設に着手するため、交渉を開始することを決議いたしました。平成17年5月26日には福井県と当社の間で、工場立地についての協定を締結いたしました。

財務ハイライト

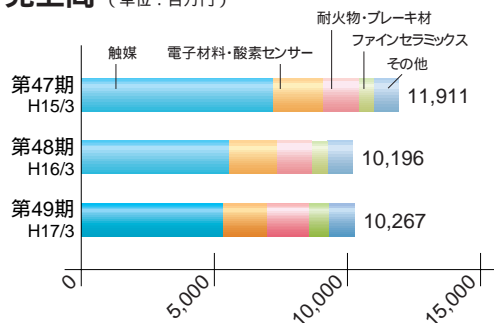
主要な経営指標等の推移

回次	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
売上高(千円)	11,911,321	10,196,541	10,267,393
経常利益(千円)	1,467,519	787,662	911,535
当期純利益(千円)	840,191	667,721	455,594
資本金(千円)	234,200	366,200	787,100
発行済株式総数(千株)	206	214	2,440
純資産額(千円)	7,183,614	8,076,253	9,501,426

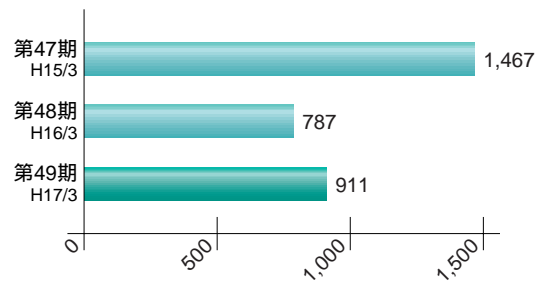
回次	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
総資産額(千円)	11,706,785	11,799,042	12,692,669
1株当たり純資産額(円)	3,487.19	3,764.83	3,888.25
1株当たり当期純利益(円)	421.14	310.64	197.53
自己資本比率(%)	61.4	68.4	74.9
自己資本利益率(%)	13.0	8.8	5.2
配当性向(%)	3.8	5.2	12.7

当社は平成16年4月20日付で、株式1株につき10株の分割を行っておりますが、1株当たり指標は、株式分割が期首に行われたものとして算出しております。それ以前の期につきましても、分割調整後の計数にて記載しております。

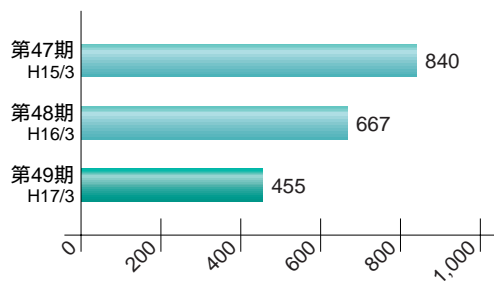
売上高 (単位: 百万円)



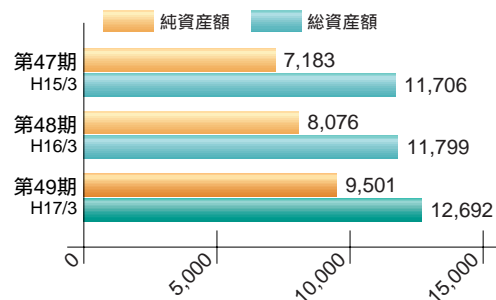
経常利益 (単位: 百万円)



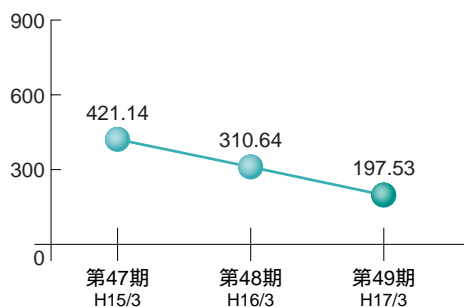
当期純利益 (単位：百万円)



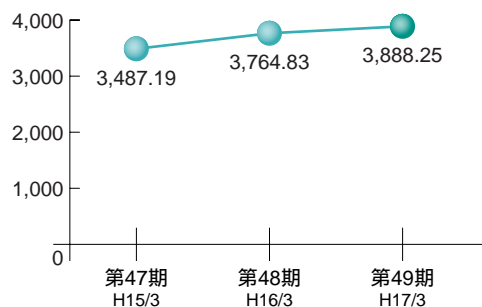
純資産額・総資産額 (単位：百万円)



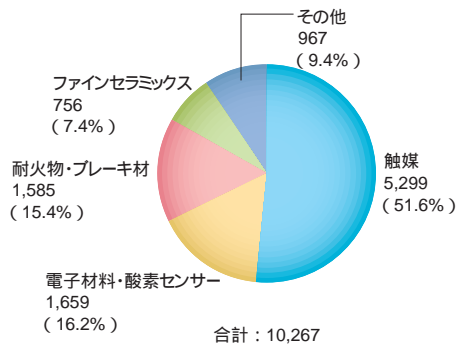
1株当たり当期純利益 (単位：円)



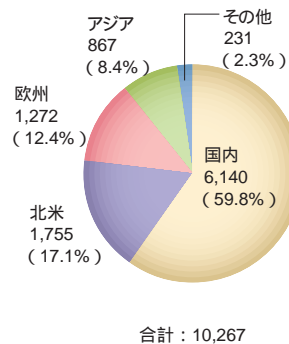
1株当たり純資産額 (単位：円)



用途別売上高 (単位：百万円)



地域別売上高 (単位：百万円)



財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科目	期別	
	当期 平成17年3月20日現在	前期 平成16年3月20日現在
(資産の部)		
流動資産	8,004,750	7,125,036
現金及び預金	2,596,617	2,275,191
受取手形	1,038,853	890,076
売掛金	1,846,579	1,931,081
製品	859,773	752,032
原材料	744,057	439,554
仕掛品	627,944	457,841
貯蔵品	6,741	19,661
未収入金	114,711	118,774
繰延税金資産	104,621	84,558
その他	65,758	161,913
貸倒引当金	910	5,650
固定資産	4,687,919	4,674,005
有形固定資産	3,936,493	3,840,586
建築物	985,098	985,236
構築物	72,449	83,722
機械及び装置	1,669,058	1,699,485
車両運搬具	11,594	11,744
器具備品	144,984	168,041
土地	813,555	813,555
建設仮勘定	239,753	78,802
無形固定資産	226,300	273,767
電話加入権	2,483	2,483
ソフトウェア	223,817	271,284
投資その他の資産	525,125	559,651
投資有価証券	107,102	92,833
長期貸付金	228,794	259,428
保証金及び敷金	144,923	163,822
その他	44,365	43,817
貸倒引当金	60	250
資産合計	12,692,669	11,799,042

科目	期別	
	当期 平成17年3月20日現在	前期 平成16年3月20日現在
(負債の部)		
流動負債	2,313,493	2,430,358
支払手形	458,628	448,902
買掛金	320,756	371,816
短期借入金	200,000	250,000
一年以内返済予定の長期借入金	328,280	393,182
未払金	242,823	406,444
未払費用	168,712	185,937
未払法人税等	176,781	-
設備関係支払手形	254,003	185,501
賞与引当金	163,438	161,784
その他	70	26,791
固定負債	877,750	1,292,429
長期借入金	708,875	1,037,155
退職給付引当金	22,604	60,748
役員退職慰労引当金	-	79,800
繰延税金負債	146,270	114,726
負債合計	3,191,243	3,722,788
(資本の部)		
資本金	787,100	366,200
資本剰余金	1,194,589	600,289
資本準備金	1,194,589	600,289
利益剰余金	7,486,633	7,084,314
利益準備金	35,000	35,000
任意積立金		
特別償却準備金	196,312	247,146
資産圧縮積立金	97,835	8,955
別途積立金	6,620,000	6,020,000
当期末処分利益	537,485	773,213
株式等評価差額金	33,103	25,449
資本合計	9,501,426	8,076,253
負債・資本合計	12,692,669	11,799,042

損益計算書

(単位：千円)

科目	期別	
	当期 (自平成16年3月21日 至平成17年3月20日)	前期 (自平成15年3月21日 至平成16年3月20日)
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	10,267,393	10,196,541
売上高	10,267,393	10,196,541
営業費用	9,309,032	9,278,365
売上原価	7,587,401	7,520,018
販売費及び一般管理費	1,721,631	1,758,347
営業利益	958,360	918,175
営業外損益の部		
営業外収益	29,920	26,628
受取利息及び配当金	10,583	10,798
その他営業外収益	19,337	15,830
営業外費用	76,746	157,141
支払利息	25,779	33,629
為替差損	-	112,796
その他営業外費用	50,967	10,714
経常利益	911,535	787,662
(特別損益の部)		
特別利益	4,930	331,837
助成金受入額	-	316,514
貸倒引当金戻入額	4,930	15,323
特別損失	144,621	108,589
固定資産除却損	5,711	57,589
訴訟損失額	138,909	51,000
税引前当期純利益	771,844	1,010,910
法人税、住民税及び事業税	310,000	285,000
法人税等調整額	6,250	58,188
当期純利益	455,594	667,721
前期繰越利益	81,890	105,491
当期末処分利益	537,485	773,213

利益処分

(単位：円)

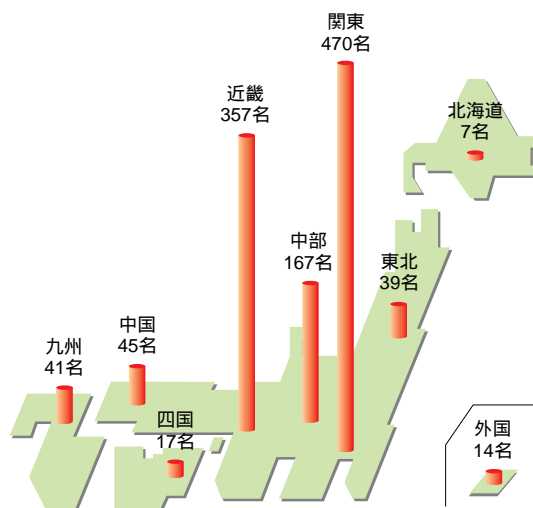
科目	期別	
	当期 (自平成16年3月21日 至平成17年3月20日)	前期 (自平成15年3月21日 至平成16年3月20日)
当期末処分利益	537,485,357	773,213,156
資産圧縮積立金取崩額	22,365,699	1,878,407
特別償却準備金取崩額	50,026,625	50,833,636
合計	609,877,681	825,925,199
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	61,000,000	33,775,840
	(1株につき25円)	(旧株1株につき160円00銭 新株1株につき101円98銭)
取締役賞与金	14,100,000	-
役員賞与金	-	19,500,000
(うち監査役賞与)	-	(3,000,000)
特別償却準備金	8,019,000	-
資産圧縮積立金	-	90,758,400
別途積立金	430,000,000	600,000,000
次期繰越利益	96,758,681	81,890,959

株式の状況 (平成17年3月20日現在)

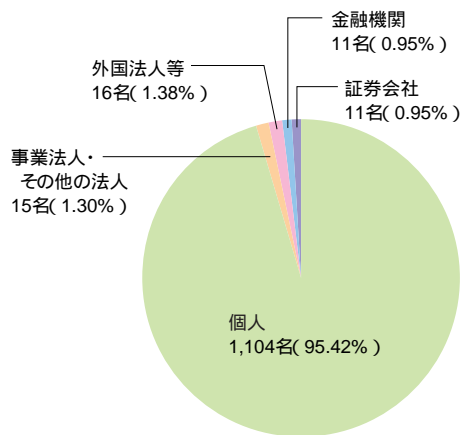
会社が発行する株式の総数 8,560,000株
 発行済株式の総数 2,440,000株
 株主数 1,158名
 大株主

株主名	持株数	議決権比率
國部克彦	148,000 (株)	6.07 (%)
第一稀元素化学工業従業員持株会	89,200	3.66
井上純子	81,000	3.32
日本スタートラスト信託銀行株式会社	79,400	3.25
井上剛	75,000	3.07
國部智之	66,000	2.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	60,200	2.47
國部恭一郎	60,000	2.46
浅見智信	54,000	2.21
梅本禎親	50,000	2.05

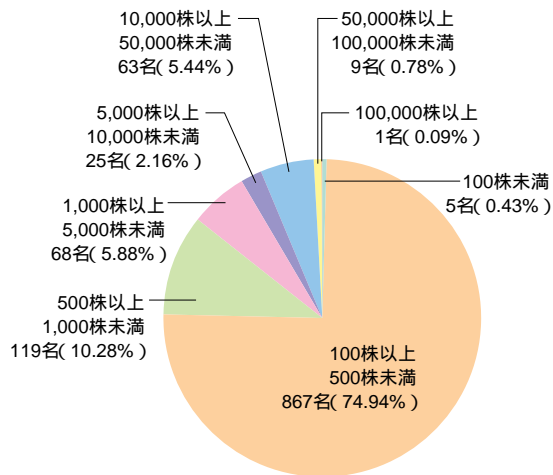
全国株主分布図



所有者別株主分布状況



所有株数別株主分布状況



会社概要 (平成17年3月20日現在)

会社概要

商号 第一稀元素化学工業株式会社
会社設立 昭和31年5月
資本金 787,100,000円
代表者 代表取締役社長 杉井 洋
社員数 253名
事業所 本社・大阪工場
大阪府大阪市住之江区平林南1丁目6番38号
ニューテックス事業所
大阪府大阪市住之江区南港東1丁目5番20号
江津工場
島根県江津市松川町上河戸400 - 4
大阪営業所
大阪府大阪市中央区今橋4丁目4番7号
東京営業所
東京都港区虎ノ門1丁目1番20号

取引銀行 東京三菱銀行 山陰合同銀行
三井住友銀行 宮崎銀行
りそな銀行 中小企業金融公庫



本社・大阪工場



ニューテックス事業所



江津工場

役員	取締役会長	國部 恭一郎
	代表取締役社長	杉井 洋
	取締役	高塚 敏夫
	取締役	中谷 利雄
	取締役	笠間 士郎
	取締役	小田 誠
	取締役	梅本 禎親
	常勤監査役	黒田 英徳
	監査役	濱中 一夫
	監査役	西井 信博

ホームページのご紹介



当社ホームページでは、より皆様に当社のことや当社が取扱うジルコニウムをご理解いただければと、キド博士とジルコくんとの2つのキャラクターによりご説明する「稀元素四方山話」を設けております。また、製品情報ではお得意先様への当社製品の詳細情報を発信しております。

下記、アドレスにて一度ご覧下さいませ。

<http://www.dkkk.co.jp/>

株主メモ

決 算 期 毎年3月20日

定 時 株 主 総 会 毎年6月に開催

基 準 日 毎年3月20日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部

同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

同 連 絡 先 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

(郵便物送付) 三菱信託銀行株式会社 証券代行部

及び電話照会) 電 話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

住所変更、配当金振込指定・変更、買取・買増請求に必要な各
用紙、及び株式の相続手続依頼書のご請求は、0120-864-490
(フリーダイヤル、自動音声応答サービス)にて24時間承って
おります。

公 告 掲 載 紙 日本経済新聞

当社は、貸借対照表及び損益計算書を、決算公告に代えて、ホームページに
掲載することといたしましたので、お知らせいたします。

アドレスは次のとおりです。

<http://www.dkkk.co.jp/>

上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所市場第二部

ジルコニウム、セシウム、希土類化合物で次世代技術に貢献

 第一稀元素化学工業株式会社

<http://www.dkkk.co.jp/>

〒559-0025 大阪市住之江区平林南1丁目6番38号

TEL(06)6682-1261(代表) FAX(06)6682-1238



古紙配合率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆油インキを使用しています